

KYODO PR Business Report

第52期（平成27年12月期）事業報告書

 共同ピーアール株式会社

www.kyodo-pr.co.jp

【経営理念】

我々は情熱と創造性で
顧客の課題解決を図り
100年のコミュニケーションをつなぐ
PRエージェンシーである。

【ビジョン】

No.1 PR



代表取締役社長
谷 鉄也

100年のコミュニケーションをつなぐ PRエージェンシーとして「No.1」を目指します。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。昨年8月に代表取締役を拝命いたしました谷鉄也でございます。

当社グループの第52期(平成27年12月期)連結業績の概況をご報告申し上げます。

共同ピーアール株式会社につきましては、新規リテイナー契約数の伸張及び代理店との協業強化によるオプション&スポット案件の獲得を目指して、積極的な営業活動を行ってまいりました。その結果、前期の大幅な赤字から回復し、営業利益以下黒字で終えることができました。最終損益につきましては108百万円の黒字(前期は515百万円の赤字)となり、当社としては3期ぶりの黒字転換となりました。しかしながら、売上高については3,704百万円(前期は4,062百万円)となり、前期を下回りました。これは、大手外資系企業のリテイナー契約終了や官公庁からの大型案件を受託できなかった影響が大きく、また、新規リテイナー契約数が想定したほど伸びなかったことによるものであります。

一方、連結子会社である共和ピー・アール株式会社については、既存のリテイナー顧客からの安定した収益に加えて、オプション&スポット案件受注数が増加したことにより売上高は増加いたしました。同じく、映画のPRに特化した連結子会社である株式会社マンハッタンピープルにつきましても、業界における確固たる地位と提供するサービスに対する信頼から、高い興行収入が期待される大型作品を継続的に受注しております。

以上より、当連結会計年度の売上高は3,704百万円(前期比8.8%減)、営業利益131百万円(前期は386百万円の営業損失)、経常利益126百万円(前期は384百万円の経常損失)、当期純利益108百万円(前期は515百万円の当期純損失)となりました。

来期の業績見通しにつきましては、引き続き利益率の高いリテイナー顧客の維持と新規獲得を図ることにより収益基盤の安定化に努めるとともに、広告会社への営業や地方自治体への営業強化に取り組み、平成28年12月期通期連結業績予想は、売上高3,843百万円、営業利益141百万円、経常利益136百万円、親会社株主に帰属する当期純利益122百万円を目指します。新たに策定した中期ビジョン「No.1 PR」を実現し、目標とする業績を達成するため、社員一丸となって全力を尽くしてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



**アイデアひとつで世の中を動かす。
個性が輝くPRのプロフェッショナル集団。**

PRアカウント本部 一局 村田 春雄

PRはアイデアひとつで結果が大きく変わります。常に様々な分野にアンテナを張り巡らせておかないと、斬新なアイデアやユニークな発想は生まれません。私も10年以上PRに携わっていますが、日々成長しなければならないと感じています。そのようなプレッシャーがある一方で、新しいアイデアがクライアントに賛同された時や成功した時の喜びはひとしおです。共同ピーアールは個を尊重する社風で、提案やプレゼンは十人十色です。ただPRは「これが正解」というものはなく、様々な意見やアイデアが必要不可欠です。個性的な人たちが集まったPRのプロフェッショナル集団の一人として、今後も成長していきたいと思います。



**テレビパブリシティの影響力を実感！
二度とない瞬間に立ち会える喜び。**

PRアカウント本部 三局 長谷川 千佳

PRの仕事は二度とない瞬間に立ち会うことができる仕事です。商業施設のオープニングPRでは、開業ならではのスピード感や、テレビを中心としたパブリシティの影響力を実感しました。実際に、自分がプロモートして放映につながった番組を見て、多くのお客さんが来てくれたり、売上などの数字が伸びたりするを経験できます。そして、何よりも取材を受けたお店の方やクライアントに喜んでもらえることにやりがいを感じます。今後も質の高いパブリシティをより多く獲得できるように、情報発信とメディアへのアプローチをしていきたいです。

青森県蓬田村 トマトマルシェのPR活動

当社では青森県蓬田村のトマト販売会のPRを行うため、夏の風物詩“流しそうめん”ならぬ「世界初となる巨大“流しトマト”大会」を企画しました。夏という“季節感”“世界初”といったニュース性が功を奏して、青森県のメディアだけでなく全国ネットのテレビ番組でも報道していただくことができました。トマトをぶつけ合うようなトマト祭とは違い、トマトを食べるイベントであり、何よりも子供たちに楽しんでもらうことができました。結果として、普段の販売会の5倍の来場者を集めることができました。



海外から英文サイトをリニューアル！

海外からの売上拡大を目指して、英文のコーポレートサイトをフルリニューアルいたしました。当社海外業務チームが海外の方にコンテンツを作成して、既に海外から多くの依頼を受けています。当社社員によりブログも始まっており、記事は東洋経済オンラインの「TOKYO BUSINESS TODAY」にも提供しています。外国の方に向けて、当社のPRやマーケティングについて身近に感じられる内容になっています。



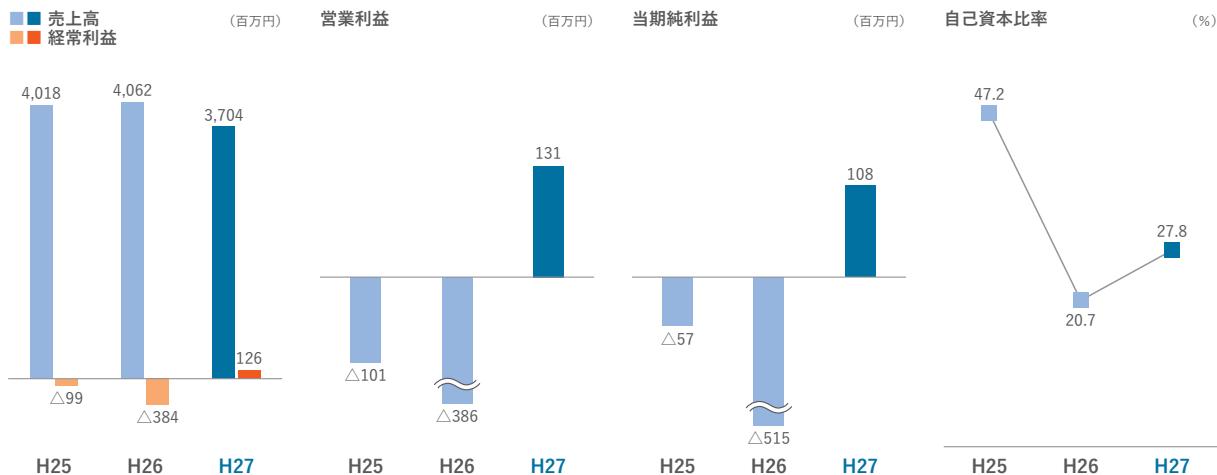
洋画の興行収入ランキングを独占！ マンハッタンピープルが存在感を示す！

当社のグループ会社である株式会社マンハッタンピープルが、宣伝サポートした洋画『ジュラシック・ワールド』『ベイマックス』『シンデレラ』『ミニオンズ』が、2015年外国映画作品別興行収入ランキング（文化通信調べ）の上位4位までを独占しました。国内の映画についても、『イニシエーション・ラブ』や『海街diary』など話題作の宣伝をサポートしています。当期も数多くの作品に恵まれて、日本最大の映画専門PR会社として、大きく飛躍することができました。



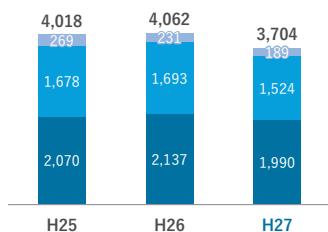
© Universal Pictures and Amblin Entertainment.

Financial Highlight | 決算ハイライト |



科目	当期 平成27年1月1日～12月31日	構成比	前期 平成26年1月1日～12月31日	構成比	増減率
売上高	3,704	100.0%	4,062	100.0%	91.2%
売上総利益	2,319	62.6%	1,840	45.3%	126.1%
販売・一般管理費	2,188	59.1%	2,226	54.8%	98.3%
うち、人件費	1,773	47.9%	1,806	44.5%	98.2%
営業損益	131	3.5%	△386	-	-
経常損益	126	3.4%	△384	-	-
当期純損益	108	2.9%	△515	-	-
売上高経常利益率	3.4%	-	-	-	-
自己資本比率	27.8%	-	20.7%	-	-
連結・EPS	87.87円	-	△419.06円	-	-
1株当たり配当金	0.00円	-	0.00円	-	-

■ 業務区別売上高 (百万円)



リテイナー …………… 企業などの広報活動を6ヶ月以上の契約をもって支援及びコンサルティングしていくのであります。PR戦略の策定からパブリシティ(記事化)業務、不祥事発生時の危機管理広報対応支援など幅広いサービスを行っております。

オプションナル&スポット … オプションナルとは、リテイナー契約顧客に対する一時的な付加サービスを言います。スポットとは、企業などの6ヶ月未満の広報活動支援を言います。ニュースリリースの作成・配信などのパブリシティ活動から、展示会や美術展等の開催告知目的のPR活動、記者発表会の企画・運営等まで各種のニーズに対応します。

ペイドパブリシティ …………… 新聞や雑誌等の特定のページを購入して、顧客の意図する内容を記事形式で掲載していく手法を言います。

Consolidated Financial Statements | 連結財務諸表 |

■ 連結貸借対照表(要旨)

科目		当期	前期
資産の部	流動資産	1,921	2,092
	固定資産	325	314
	資産合計	2,246	2,407
負債の部	流動負債	1,458	1,645
	固定負債	163	264
	負債合計	1,621	1,910
	資本金	419	419
純資産の部	資本剰余金	360	360
	利益剰余金	△166	△301
	自己株式	△16	△16
	株主資本合計	598	463
	その他有価証券評価差額金	10	8
	為替換算調整勘定	-	3
	退職給付に係る調整累計額	15	22
	その他の包括利益累計額合計	26	34
	純資産合計	624	497
	負債純資産合計	2,246	2,407

※当期:平成27年12月31日現在 (百万円)
 ※前期:平成26年12月31日現在

■ 連結損益計算書(要旨)

科目	当期	前期
売上高	3,704	4,062
売上原価	1,385	2,222
売上総利益	2,319	1,840
販売費及び一般管理費	2,188	2,226
営業損益	131	△386
営業外収益	5	9
営業外費用	9	7
経常損益	126	△384
特別利益	5	-
特別損失	-	1
税金等調整前当期純損益	131	△386
法人税等	23	129
当期純損益	108	△515

※当期:平成27年1月1日～12月31日 (百万円)
 ※前期:平成26年1月1日～12月31日

■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	当期	前期
営業活動による キャッシュ・フロー	△260	76
投資活動による キャッシュ・フロー	△67	7
財務活動による キャッシュ・フロー	△79	67
現金及び現金同等物の 期末残高	403	810

※当期:平成27年1月1日～12月31日 (百万円)
 ※前期:平成26年1月1日～12月31日

Company Profile | 会社情報 |

■ 取締役及び監査役 (平成28年3月30日現在)

取締役会長	古賀 尚文
代表取締役社長	谷 鉄也
取締役副社長	沼田 英之
専務取締役	西井 雅人
取締役	木村 忠久
社外取締役	平 英毅
常勤(社外)監査役	行本 憲治
監査役	越智 大藏
社外監査役	佐伯 一郎

※1.社外取締役である平英毅氏及び社外監査役である行本憲治氏は、株式会社東京証券取引所の規程する独立役員であります。
 ※2.監査役のうち、行本憲治氏及び佐伯一郎氏は社外監査役であります。

■ 大株主 (平成27年12月31日現在)

株主名	持株数	持株比率
(株)新東通信	377,600株	30.7%
(株)テクノロジーグローバル研究所	200,000株	16.3%
SMBC日興証券(株)	62,900株	5.1%
佐藤 友亮	55,800株	4.5%
共Pグループ従業員持株会	42,900株	3.5%
惟野 育太	34,000株	2.8%
上村 巍	21,900株	1.8%
大木 佑輔	20,400株	1.7%
奥井 光明	20,000株	1.7%
鈴木 泰弘	19,100株	1.6%

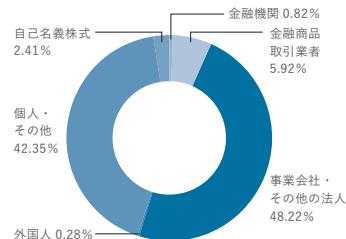
注)持株比率は自己株式(30,317株)を控除して計算しております。
 また、自己株式につきましては、上記の表から除外しております。

■ 株式状況 (平成27年12月31日現在)

発行可能株式総数	5,040,000株
発行済株式の総数	1,260,000株
株主数	768名

■ 所有者別株式分布状況

(平成27年12月31日現在)



社名 共同ピーアール株式会社(証券コード:2436)
KYODO PUBLIC RELATIONS CO., LTD.
所在地 〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル
電話:03-3571-5171(代) FAX:03-3574-1005
創業 1964年(昭和39年)11月
資本金 4億1,990万円
社員数 194名(単体)、224名(連結)
(平成27年12月31日現在)

